



会社データ

●有限会社月刊日本橋
 創業年：1979年（昭和54年）4月創刊
 代表者：上林武人
 事業内容：日本橋界隈のビジネスマン、OL、訪れる買い物をターゲットに、地域に根差した話題、ショッピング情報、歴史読みもの、エッセイなどを提供するタウン誌の編集ほか
 資本金：1,000万円
 売上高：非公開
 従業員数：5人
 所在地：東京都中央区日本橋室町1-8-2
 電話：03-6202-1221
 URL：http://www.nihombashi.co.jp/



『月刊日本橋』4月号

まちびと

紳士録

#001 かんばやしたけと 上林武人

1944年（昭和19年）4月29日、北鎌倉生まれ。実家は日本橋の呉服屋で、虎ノ門や目黒界隈で育つ。東京都港区立朝絵小学校卒業。妻、息子2人の4人家族。

趣味：テニスと街道歩き。五街道はすべて歩いたという健脚の持ち主。好きな店・おススメ：食べものや。どの店もおいしい。



東京 日本橋

まちづくりネットワーク 1

●日本橋めぐりの会 遠藤梨栄

日本橋界隈を舞台に、まちづくりに取り組む人々とその活動などを紹介。まちを愛し、奮闘する「まちびと」の輪をリレー形式でつなぐ。



東京都中央区「日本橋」。国の重要文化財。現在の石造りの橋は2011年に架橋100年を迎える。旧日本橋区は、戦後の区画整理で「日本橋」を冠する21の町と八重洲とに分けられた。今でも約200軒以上の老舗がのれんを掲げる。



毎年秋に開催される「日本橋京橋まつり」の『月刊日本橋』とJAのテント前で。「にほんばし江戸東京野菜プロジェクト」の技術指導をして下さっているJAのみなさんと上林氏（右端）

江戸前の寿司や天ぷら、蕎麦、鰻のかば焼き、日本料理……。日本橋は食べ物のおいしい店が多く、値段も手頃。この界隈で代々商いを続ける老舗は材料にお金をかけ、手間暇かけて丁寧に作る。まさに「おいしい」まちである。

そんなまちの魅力に取りつかれ、タウン誌『月刊日本橋』を立ち上げたのが上林武人さんだ。誌面にはまちの話題や情報のほか、まち歩きが楽しくなる読みものをふんだんに盛り込む。編集部でプ



店頭で金町小蕪を育てる、錠餅の老舗「にんべん」の女性社員

ロデュースする企画も多い。なかでも、昨年創刊30周年を記念して始めた「にほんばし江戸東京野菜プロジェクト」はユニークな取り組みだ。老舗など協力店の店先で金町小蕪や亀戸大根、小松菜などの「江戸野菜」を栽培してもらい、収穫するというもの。

「江戸野菜」は全国にPRできる地域資源でもあり、今後の展開に期待大である。そのほか、老舗ツアーや日本橋川クルージング、江戸や老舗関連の文化講座などのイ



「育てる喜び」も楽しみの一つ。間引きをする「にんべん」の本店店長さんと社長さん



高速道路を見下ろす『月刊日本橋』の編集部にもプランターが。協力店で育ててもらうのは、亀戸大根、小松菜、金町小蕪、しんとり菜

ベントを次々に企画。誌面の内から外からまちづくりに取り組む姿は、タウン誌発行人よりむしろ、地域活性化の仕掛け人のようだった。



まちづくりに必要なのは、若者・よそ者・バカ者

既成概念にとらわれない「バカ者」らの情熱や新鮮な発想がまちに活力を与える。「まち人もも返らなければ」と、『月刊日本橋』も世代交代準備中。

新しい発想でまちに刺激を与え「若者」や、その土地にしかない魅力を発見する「よそ者」、

日本橋めぐりの会「日本橋・京橋地区のまちづくりを提案・実行」応援する有志の任意団体。日本橋老舗リレーツアーや「シャッターチャンスプロジェクト」などの活動は取れたら、他地域の自治体や事業者にも紹介したい企画が多く、人と人との出会いと交流の場を作り出しています。URL：http://www.nihombashi-negun.com/

次回のまちびと 紳士服「マツオカ」の 松岡肇さん